

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,717	t-CO ₂
① （温を除く 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,717

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	1,717	t-CO ₂	1,665	t-CO ₂	3.0

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	

（2）目標設定の考え方

前期、令和6年度までの削減実績及び今年度以降の動力設備の更新・改修推進計画および各テナントへの省エネの呼びかけ等に基づく、令和9年までの計画対策効果を見込む数値を目標としました。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
空調設備：冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・基準管理温度の統一、適正化と維持管理。 ・ブラインドの活用化による日射負荷を減少させ冷暖房効果を高める。 ・中間期等可能な限り外気を取入れ空調機器の運転を削減する。 ・空調機フィルターの定期清掃による効果的な運転環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱利用量の削減 ・清掃作業のスケジュール化
受電・照明設備	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して外灯の適切な点灯時間管理に努める。 ・入居テナント専有区画内の継続的なLED化への推奨を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日之出、日の入時刻に基づく外灯等点灯時間の定期管理を維持する ・キーテナント、テナントのLED化推奨と実施
受変電等	<ul style="list-style-type: none"> ・変圧器容量と契約電力を検証し、過剰な変圧器容量の削減について精査する。 ・デマンド制御管理によるピーク時負荷カット等により最大需要電力を抑制する。 ・従業員に対し、電機機器の運用に伴う効果的な電力使用環境を常に意識する為の指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央監視設備による機器稼働時刻を意識し電力利用状況を捉え安定した電力利用を実施する
水利用の合理化	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの水量調整 ・従業員の節水意識改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ不良時の対象部品による早期修繕対処 ・定水量弁の増設の検証

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--